

# 2026 年度事業計画

自 2026 年 4 月 1 日

至 2027 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

## 目 次

はじめに

### I 囲碁普及事業（公益目的事業）

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 囲碁対局環境の提供
- 4 囲碁普及と囲碁指導
  - 4-1 青少年等への囲碁普及
  - 4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
  - 4-3 海外への囲碁普及
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
  - 10-1 有楽町囲碁センター
  - 10-2 関西総本部
  - 10-3 中部総本部

### II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍等事業（収益事業3）

### III 管理部門

- 1 コンプライアンス
- 2 受取寄付金の維持・拡大と有効活用

## はじめに

日本の国技である囲碁を通じ、伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦、棋士育成、情報提供、大会、認定等の事業を実施していく。また、事業計画及び予算は以下の通りとする。

## I 囲碁普及事業（公益目的事業）

### 1 棋戦事業

棋戦は、囲碁の歴史を創造する場であるとともに棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たし、新聞での速報や観戦記の掲載、テレビやインターネットでの中継、棋力向上と囲碁文化の振興に寄与している。各地で開催される挑戦手合では、棋士と地元の愛好家や子どもたちとの交流の場として、対局を直接体験できる機会を設け、解説会や指導碁等によるイベントを同時に開催していく。海外棋戦を含めた概要は以下の通りとなる。

#### (1) 棋聖戦（第 51 期 読売新聞社）

予選：アマチュア 4 名を含む全棋士が参加する、ファーストトーナメント予選を実施し、勝ち上がり 16 名が C リーグに出場。

リーグ戦：上位から順に S リーグ（6 名）、A リーグ（8 名）、B リーグ（8 名×2 組）、C リーグ（32 名の変則リーグ）を行い、各リーグの優勝者がパラマス方式による挑戦者決定トーナメントを行う。各リーグの上位 2 から 6 名は上位リーグに昇格し、逆に各リーグの下位 2 から 6 名は下位リーグに降格する。

挑戦手合：七番勝負（4 勝先取）を実施し棋聖位を決定。敗者は次期 S リーグ戦から出場。

#### (2) 名人戦（第 51 期 朝日新聞社）

予選：全棋士が参加し、4 段階の予選を行い、リーグ入り（4 枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：9 人による総当たり戦を実施し第 1 位者が挑戦者になる。上位 5 名が残留、4 名が陥落（次期最終予選からの出場）。

挑戦手合：七番勝負（4 勝先取）を実施し名人位を決定。敗者は次期リーグ戦から出場

#### (3) 王座戦（第 74 期 日本経済新聞社）

予選：全棋士が参加し、本戦出場の枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期決勝進出者 2 名とタイトルホルダー）が加わり 16 名が王座への挑戦権をかけた本戦トーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し王座位を決定。敗者は次期本戦から出場。

#### (4) 天元戦（第 52 期 新聞三社連合）

予選：全棋士が参加し、本戦出場 28 名 +  $\alpha$  をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期準決勝進出者 4 名とタイトルホルダー）が加わり天元への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し天元位を決定。敗者は次期本戦から出場。

#### (5) 本因坊戦（第 81 期 毎日新聞社）

予選：全棋士が参加し、本戦出場 14 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期決勝進出者 2 名）が加わり 16 名が本因坊への挑戦権をかけた本戦トーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し本因坊を決定。敗者は次期本戦から出場。

#### (6) 碁聖戦（第 51 期 新聞囲碁連盟）

予選：全棋士が参加し、本戦出場 24 名をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期準決勝進出者 4 名とタイトルホルダー）が加わり碁聖への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し碁聖位を決定。敗者は次期本戦から出場。

#### (7) 十段戦（第 65 期 産経新聞社）

予選：全棋士が参加し、本戦出場 16 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期準決勝進出者 4 名）を加えた 20 名で十段への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し十段位を決定。敗者は次期本戦から出場。

- (8) 新人王戦 (第 51 期 しんぶん赤旗)  
25 歳以下の初段から六段までの棋士で予選を行い、33 名によるトーナメント戦を実施する。決勝戦は三番勝負で優勝者を決定。
- (9) NHK 杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第 74 回 NHK)  
選抜棋士 50 人によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。
- (10) 竜星戦 (第 35 期 囲碁将棋チャンネル)  
予 選：全棋士が参加し、本戦出場 96 名をかけたトーナメント戦を実施。  
本 戦：96 名を 8 組に分け勝ち抜き戦の後 16 名による決勝トーナメント戦を実施し、優勝者を決定する。  
C S 放送 (囲碁・将棋チャンネル) で放映。
- (11) 新竜星戦 (第 5 回 囲碁将棋チャンネル)  
竜星戦決勝トーナメント進出者 (16 名) ほか、32 名によるトーナメント戦。早碁 (フィッシャー方式) での実施。決勝戦は 3 番勝負。
- (12) 女流本因坊戦 (第 45 期 共同通信社)  
本 戦：予選の勝ち上がりと前期ベスト 4、女流タイトルホルダー 24 名によるトーナメント戦を実施。  
挑戦手合：五番勝負 (3 勝先取) を実施し女流本因坊位を決定。
- (13) 女流棋聖戦 (第 30 期 NTT ドコモ)  
本 戦：予選の勝ち上がり、前期挑戦手合敗者、女流タイトルホルダーの 16 名によるトーナメント戦。  
挑戦手合：三番勝負 (2 勝先取) を実施し女流棋聖位を決定。本戦と挑戦手合は C S 放送 (囲碁将棋チャンネル) で放映。
- (14) 扇興杯女流囲碁最強戦 (第 11 回 センコーグループホールディングス)  
予選勝ち上がり者と前回優勝者、準優勝者、女流タイトルホルダー 16 名によるトーナメント戦。準決勝、決勝戦は滋賀県東近江市で開催し優勝者を決定。
- (15) 日本女子囲碁リーグ (第 2 回 阪急電鉄、三井住友カードほか)  
1 チーム監督と女流棋士 4 名で構成し、3 名対 3 名によるチーム団体戦を実施。リーグ戦 1 位と 2 位で決勝戦を行い、優勝チームを決定。
- (16) テイケイグループ杯 俊英戦 レジェンド戦 女流レジェンド戦 (第 6 回 テイケイグループ)  
俊英戦：予選勝ち上がり者 12 名を 6 名ずつの 2 つのリーグに分け、リーグ優勝者による決勝三番勝負を実施し、優勝者を決定。  
レジェンド戦：60 歳以上の棋士の予選勝ち上がり者、名誉タイトル保持者、女流レジェンド戦準決勝進出者による 18 名のトーナメント戦。  
女流レジェンド戦：45 歳以上の女流タイトル獲得者に予選勝ち上がり者による 16 名のトーナメント戦。
- (17) 王冠戦 (第 67 期 中日新聞社)  
中部総本部所属の棋士で予選を行い 12 名によるトーナメント戦。優勝者が挑戦手合一番勝負に出場。
- (18) 広島アルミ杯・若鯉戦 (第 21 回 広島アルミニウム工業)  
30 歳以下、七段以下の棋士で予選を行い、16 名 (前期優勝者、準優勝者はシード) によるトーナメント戦。本戦は広島で開催し、優勝者を決定。
- (19) S G W 杯中庸戦 (第 9 回 セントグランデW)  
日本棋院所属の 31 歳以上 60 歳以下かつ七大棋戦、竜星戦、阿含・桐山杯、S G W 杯中庸戦の優勝経験がない棋士が参加。
- (20) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦 (センコーグループホールディングスほか)  
日本、中国、韓国、中華台北のトップ女流棋士 8 名による女流世界 1 位決定戦。
- (21) 関西囲碁オープントーナメント 2026  
関西総本部、関西棋院所属の棋士と関西トップアマおよび女流トップアマが、賞金ランキングクラス別 (トップ、A、B、C、D クラス) に分かれ予選を行い、本戦 8 名によるトーナメント方式により各クラス優勝者 5 名を決定。
- (22) 岩本薫記念益田杯 (第 4 回 道栄商事)  
18 歳以下かつ二段以下の棋士および日本棋院院生若干名、16 名による 4 回戦リーグ戦。
- (23) フマキラーブレインズマッチ (第 6 回 フマキラー(株) 今年度より公式戦)  
女性棋士の前年賞金ランキング上位 16 名による 4 回戦のトーナメント戦で優勝者を決定。1 回戦は日本棋院

東京本院で実施（午前午後各4局を実施）、2回戦、準決勝、決勝は広島で実施する。

#### (24) 海外棋戦

L G杯、三星火災杯、農心杯、国手山脈杯（以上、韓国主催）、春蘭杯、夢百合杯、吳清源杯、乙級リーグ（以上、中国主催）等の海外棋戦に参戦する。また、海外棋戦の参戦にあたっては、「GO・碁・ジャパン」（囲碁ナショナルチーム）を編成し、応援募金の支援によるチーム強化等を図り、成績向上を目指す。なお、チームは監督、コーチを中心に、賞金ランキング上位者、海外棋戦における成績優秀者、新人王、女流棋士ランキング上位者等の中から選出し代表選手及び育成選手で編成する。

## 2 棋士育成事業

棋士をめざす青少年の養成機関として院生研修を実施するとともに、海外棋戦での活躍に向けて若手棋士の育成を行う。

### (1) 院生研修・棋士採用

院生研修は、毎週土曜と日曜に実施する。棋士師範の指導のもと、クラス別のリーグ戦で対局し、毎月の成績によりクラスの昇降級を行い、成績上位者と外来受験者で行われる棋士採用試験を実施する。また、指導の点については、師範による解説と検討を実施するとともに、伝統文化としての棋道を担う棋士育成として、公序良俗の観念を習得してもらうよう指導を行う。

### (2) 若手棋士育成

「GO・碁・ジャパン」メンバーの若手棋士には、海外棋戦への挑戦による海外対局感覚を身につけていく。また、棋力向上の取り組みとして、毎週土曜日、東京本院にて研究会を開催（関西および中部所属の棋士はネット対局で参加）し、夏季、冬季にはチーム合宿または強化策を実施する。

## 3 囲碁対局環境の提供

各拠点において、対局環境を提供するとともに、ネット対局サイト「幽玄の間」にて、いつでもどこでも囲碁が楽しめる環境を提供していく。

### (1) 対局場

各拠点において、対局環境を提供し、お客様同士で自由に対局が行えるほか、対局相手を見つけて組み合わせによるサービスを行っている。また、入門者向けコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供していく。

### (2) ネット対局サイト「幽玄の間」

世界の愛好家が、パソコン、スマートフォン、タブレット上で手軽に対局を楽しめる環境となり、囲碁普及の中核的な事業として強化し魅力あるサービスを展開していく。2017年より導入している対戦用AIのバリエーション増等に取り組んでいく。

### (3) 貸室・囲碁用品の提供

大会、セミナー等の開催によるホールや和室等の対局環境を提供するほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸出を行い多様な要望に応じていく。

### (4) 海外囲碁センターの支援

南米に保有する囲碁センター（ブラジル・サンパウロ）は、現地の囲碁普及団体に運営を委ね、現地の囲碁普及活動を支援していく。

## 4 囲碁普及と囲碁指導

囲碁は、集中力、認識力、想像力、コミュニケーション力の向上に優れ、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが、福祉、医学、教育界等で認知されており、「囲碁と脳に関する研究」（東北大学）でも「囲碁は、子供の自己抑制力を伸ばす」ことが明らかとなっている。また、愛好家の棋力向上、囲碁文化の普及のため、棋士による指導のほか、普及指導員、地元ボランティアによる囲碁指導を全国で展開していく。

### 4-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求めため、地方自治体や学校等と協力体制をとり、地域に密着した囲碁普及事業を広く展開していく。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 全国の小・中学校で入門囲碁体験教室を開催

棋士等を派遣し指導を行い、現地での継続的な開催を支援する。

② ジュニア教室の開催

東京本院、関西総本部、中部総本部の各施設にて棋力に応じた教室を開催する。

③ 囲碁アプリの提供

2022年12月にリリースした新しい囲碁入門アプリ「囲碁であそぼ！」を活用し、これまで囲碁に触れることの少なかった層にアピールしている。また、2025年11月にリリースした「囲碁シル」では、AIがプレイヤーをサポートし、対局中は3つの最善候補を提示し、陣地がリアルタイムで可視化され、囲碁を初めて触る人も体験から始められます。

(2) 学校教育への囲碁導入

① 「総合学習」伝統文化体験学習の枠を使った正課授業及び部活動等への囲碁導入の支援を行う。

② 学校囲碁指導員講習会の実施による拡充及び指導員養成を行う。

③ 文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進を行う。

④ 高等学校に於ける日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進を行う。

⑤ 「がっこう囲碁普及基金」を活用し、学校教育導入時への棋士または指導員の派遣、用具支援を行う。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、東京やオンラインで学校囲碁指導員講習会を開催する。

(4) 大学での囲碁授業の展開

① 囲碁授業は、東京大学、大阪大学、名古屋大学、早稲田大学など全国35大学で授業を行い、今後も開講促進の活動を実施する。

② 囲碁授業の講師として棋士を派遣するとともに、囲碁授業を円滑に実施するため、講師役の棋士への研修を実施する。

(5) 「がっこう囲碁普及基金」の維持、拡大

幼稚園、保育園から小・中・高校、大学の囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした「がっこう囲碁普及基金」（2015年4月開始）の維持と拡大を行う。

## 4-2 国内における囲碁普及

囲碁の素晴らしさを伝え、未経験者への入門指導、愛好家への棋力向上に向けた指導を行い、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していく。

(1) 囲碁学校

入門者から高段者まで様々な棋力に対応した囲碁学校を常時開設し、棋士による講座、解説を実施している。

(2) 指導碁

原則毎日指導碁対応の棋士が常駐し、希望により入門者から高段者まで直接指導が受けられる環境を提供している。

(3) ネット指導碁

ネット対局サイト「幽玄の間」にて、棋士による指導碁を実施している。

(4) 棋士派遣

法人、個人を問わず全国各地からの要請により、棋士の派遣を行う。内容は、大会審判、指導碁、講演、講座等を行う。

(5) 棋譜診断

2022年3月から開始した棋譜診断サービスは、日本棋院会員向けサービスとしていたが、2023年3月より会員以外の方にも利用出来るサービスとして展開している。

(6) 囲碁愛好家との連携強化

各県本部、県支部連合会の協力のもと棋士を派遣し、愛好家と棋士の交流を深めるほか、棋士派遣を通じ囲碁人口の拡大、個人・支部会員等の維持拡大を図っている。また、支部代表者懇談会を全国8カ所で開催し、現地の要望、提案等の意見交換を行うとともに、地域の「絆を作りだす力」として強化している。

#### 4-3 海外への囲碁普及

文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツの一つとして、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図り、愛好家の棋力向上を行っていく。

##### (1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

国際囲碁連盟（IGF）と連携し、世界各国への囲碁普及と組織化を行う。また、日本棋院、中国囲碁協会、韓国棋院の三カ国の代表が出席する三カ国棋院会議を開き、将来にわたり世界に囲碁を発展させていく。

##### (2) 国際大会への参加

世界アマチュア囲碁選手権戦は 46 回目の開催を迎え、囲碁のオリンピックと言われ、自国の選抜を勝ち抜いて出場する世界最高峰の大会となる。その他ワールドユース囲碁選手権戦、ハンファ生命杯少年少女囲碁選手権戦、世界大学生囲碁選手権戦、韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦等への参加をしていく。また、国際アマチュア・ペア碁選手権大会へは、国際交流の支援及び大会の後援・協力を行っている。

##### (3) 海外棋士派遣

各官公庁・民間団体等の支援を得て、海外に棋士を派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地囲碁ファンへの講座を行っている。派遣先は、アメリカ碁コンGRESS開催地、ヨーロッパ碁コンGRESS開催地、シアトル囲碁センター（米国）等となる。

##### (4) 岩本囲碁基金

世界へ囲碁普及を推進させるため、岩本北米囲碁基金、岩本アウトリーチ囲碁基金、岩本ヨーロッパ囲碁基金の各基金を活用している。

##### (5) (一社) 全日本囲碁連合(JGOF)

囲碁競技の進化と国際的発展を推進し、囲碁を通じて国際的友好親善に貢献するとともに、日本を代表する選手等の育成強化を図り、世界の囲碁の振興に寄与することを目的として、2019 年 10 月に（公財）日本ペア碁協会、（一財）関西棋院、（公財）日本棋院の 3 団体により全日本囲碁連合が発足した。JOC 加盟を目指す等、3 団体が協力、連携を行っている。

#### 5 段級位認定

大会、紙上認定等により棋力測定を実施していく。また、棋力の証明となり、棋力に差がある場合の対局に公平に勝敗を競うことができる。

##### (1) 段級位認定大会

棋力別の大会を開催し、対局結果により棋力を認定する。

##### (2) 紙上認定

月刊碁ワールド、ホームページ、一般紙等に認定問題を掲載し、棋力の認定を行っている。また、1 回の認定で棋力の認定のできる認定問題を年 2 回実施している。

##### (3) インターネット認定

ネット対局サイト「幽玄の間」を活用し、レーティングポイントによる棋力の認定を行っている。

#### 6 囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、日本棋院が認可した全国 470 余りの支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行っていく。

##### (1) 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした、高校選手権、少年少女囲碁大会、小・中学校囲碁団体戦、こども棋聖戦等を開催している。

###### ① 第 50 回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

8 月 3、4、5 日東京本院にて全国大会を開催予定。男子団体戦、女子団体戦、男子個人戦、女子個人戦に延べ約 500 名が出場。地方大会においては、各都道府県の代表選手を決める代表選抜戦に加えて、段級位認定大会を実施している。全国高等学校囲碁連盟、高等学校文化連盟全国囲碁専門部との共催。

###### ② 第 47 回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

7 月 28、29 日東京本院にて全国大会を開催予定。小学生の部、中学生の部に各 100 名の都道府県代表選手が出場。地方大会においては、各都道府県の代表選手を決める代表選抜戦に加えて、段級位認定大会を実施している。

③ 第19回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

7月26、27日東京本院にて全国大会を開催予定。全国から小学校64校、中学校64校が集まる3名1チームの団体戦に約400名が出場。

④ 第16回 くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

12月19、20日岡山県倉敷市において全国大会を開催予定。都道府県大会で選抜された小学生低学年の部48名、小学生高学年の部48名の計96名がこども棋聖の称号をかけて競う。倉敷市・読売新聞社との共催。

⑤ その他の大会の開催

ジュニア囲碁パーク、千代田区こども囲碁大会、ジュニア囲碁フェスティバル、ジュニア囲碁大会、ロッテこども囲碁大会、夏休みこども囲碁フェスティバル等

(2) 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催する。

① 第20回全日本アマチュア名人戦

7月4、5日東京本院で全国大会を開催。都道府県代表とシード計約50名が出場。全国大会優勝者はアマチュア名人との三番勝負に出場する。朝日新聞社との共催。

② 第72回全日本アマチュア本因坊戦

8月22、23日東京本院で全国大会を開催。都道府県代表とシード計64名が出場、アマチュア本因坊の称号をかけて競う。毎日新聞社との共催。

③ 第48期世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定一番勝負

アマ名人とアマ本因坊の一番勝負により、翌年の世界アマチュア囲碁選手権戦日本代表を決定。

④ 第60回女流アマ都市対抗戦

アマチュア碁界最大規模の都市対抗戦であり、女性による1チーム5名の団体戦となる。全国の各都市持ち回りで開催し、全国から約200名が参加する。

⑤ 第69回全日本女流アマ選手権戦

各都道府県大会を勝ち上がった選手96名が、日本棋院東京本院で行われる全国大会で日本一を競う。

⑥ 都道府県民まっりの開催

各都道府県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深め、支部の活性化を推進する。

⑦ 全国規模イベントへの参加

「全国健康福祉祭＝ねんりんピック」の囲碁大会は、11月8日から埼玉県で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として参加、協力を行う。第41回国民文化祭は高知県で行われ、囲碁部門は11月28日、29日に高知市で開催される予定。

⑧ その他大会等

「1月5日は囲碁の日」と称し、東京本院、関西総本部、中部総本部で打ち初め式を開催する。棋士による記念対局や指導碁等、ファンとの交流および棋力向上を目的としたイベントを実施する。

## 7 表彰

棋道の研鑽、囲碁の普及と発展に顕著な貢献を残された方々、囲碁界の将来を担う棋士を対象として表彰している。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ1964年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する。

(2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため1963年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が囑望される棋士を表彰する。

(3) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立80周年記念事業として、囲碁殿堂資料館の発足とともに創設し、囲碁史上に多大な業績をあげ、現在の囲碁の隆盛に貢献した方を顕彰（殿堂入り）する。次の選考は2028年度の予定（4年に一度実施）。

(4) その他

上記の他、棋道賞、普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰、特別功労賞等の表彰がある。

## 8 囲碁関係情報提供

日本の伝統文化である囲碁を次世代に継承していくため、出版物およびインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を発信する。

### (1) 雑誌の発行

#### ① 月刊碁ワールド

毎月 20 日発売（会員購読、拠点の売店、全国書店販売）。中級者から有段者向け、棋戦解説を中心にグラフィック、講座、読み物、海外ニュース、トライアル問題等を掲載する。

#### ② 囲碁年鑑

月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発売。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑等の情報を掲載する。

### (2) 電子媒体による情報提供

#### ① ホームページ

棋戦情報、イベント情報、棋士プロフィールをはじめ、これから囲碁を始めたい方への入門ページ、囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」、学校囲碁普及事業の情報等を提供している。

#### ② ネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代のあらゆる地域の人たちが囲碁を楽しめるように、棋戦や主要なアマ大会の手順中継、中継された棋譜のアーカイブ提供、同好会機能による囲碁ファン同士の交流、ネットによる囲碁大会の開催、勝敗予想機能等を提供している。

#### ③ 情報会員

ホームページに付設し、60 年近くにわたる約 7 万局の棋譜データ等を提供している。

#### ④ 日本棋院囲碁チャンネル（映像配信）

Google 社の提供する映像配信サービス「YouTube」に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、棋戦のライブ中継や情報番組、棋士の情報発信などを行う。

## 9 囲碁殿堂資料館

2004 年 11 月 15 日に開設し、囲碁殿堂入りの方々とともに、囲碁の歴史、囲碁文化、関連図書、由緒ある囲碁用品展示、歴史に残る名棋譜の展示等を一般に公開している。また、2025 年 11 月よりホームページにてオンライン版「囲碁殿堂資料館」の提供をしている。

## 10 各拠点での活動

### 10-1 有楽町囲碁センター

東京交通会館（東京都千代田区）の「有楽町囲碁センター」は、年末年始を除いて年中無休で営業となり、対局環境の提供、段級位認定大会、お楽しみ囲碁大会、棋士指導碁、囲碁学校等を提供している。

### 10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置き、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山を統轄し、普及拠点として「梅田囲碁サロン」を運営している。

#### (1) 主な大会の開催及び後援

第 13 回 阪急電鉄 納涼囲碁まつり、夏休み子ども囲碁フェスティバル 2026、第 22 回寝屋川囲碁将棋まつり、定例段位認定大会および級位者棋力認定大会（年各 6 回）、シニア大会および各種懇親大会（年 20 大会程度）、アマチュア全国大会大阪府予選等（2 大会）、少年少女囲碁大会等 各府県こども予選大会（年 8 大会）、東大阪囲碁フェスティバル、春休みこども囲碁フェスタ

#### (2) 棋戦の開催

「関西オープントーナメント 2026」 阪急電鉄（株）特別協賛（当本部主催の非公式戦）

#### (3) 会館事業（梅田囲碁サロン）

「梅田囲碁サロン」は JR 大阪駅および阪急梅田駅から至便の場所に位置し、高齢者には優しく清潔で美しい環境の提供している。ポイント割引券や各種サービスの充実を図っており、対局場の提供、棋士指導碁、有段者リーグ開催、囲碁学校等を提供している。

#### (4) 学校への囲碁講座開設

関西圏の大学4校において、囲碁講座を開催し、大学への支援、新規講座開設の働き掛けを行っている。また、市区町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、小学校の総合学習の時間やクラブ活動を利用した囲碁授業の導入、私立幼稚園等への囲碁入門教室導入のためのサポート、既に授業開催をしている小学校等への支援を継続している。

### 10-3 中部総本部

名古屋市東区に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・富山・石川・福井・静岡県天竜川以西）を統轄している。

#### (1) 主な大会等の開催

まだまだ頑張る囲碁大会、ジャンボ団体戦、中部こども級位者大会、日経杯新春囲碁大会、大人のための級位者囲碁大会、愛知県・江蘇省青少年囲碁交流（来日）

また、各県支部連合会の協力の下、愛好家参加イベントを開催している。

#### (2) 棋戦の開催（新聞掲載）

「第67期王冠戦」中日新聞社主催（当本部主催の非公式戦）

#### (3) 会館事業

棋士による指導碁は、平日1名、土・日曜日1~2名の常駐している。イベント関連および入門その後のお客様をターゲットとした企画を充実させている（ゼロから始める9路盤、いよいよ13路盤、10アンダー限定の日、級位者の日、Happy級位者の日、Happy有段者の日）。囲碁学校は、入門から初級までの一貫したステップアップ講座等、全9コースを開講している。

#### (4) 基金の活用および学校講座開設

中部地区の囲碁愛好家からの寄付による「中部青少年普及囲碁基金」を活用し、高校生以下を中心とした青少年への普及活動を推進している。また、近隣幼稚園に対して継続的な入門サポートを実施し、PTA及び地域ボランティアの協力を得て、小学校の放課後授業への導入を進め、中部地区の大学へも囲碁授業導入を働きかけている。

## II 収益事業

### 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

#### (1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき発行している。棋力の証明、棋力向上の励みとなるよう9級から八段までに分かれている。また、免状には審査役である棋士が署名する。

#### (2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、9級以上の免状保持者に囲碁普及指導員（S級、A級、B級）申請の権利を、六段以上の高段位免状保有者には、県師範、公認審判員を申請する権利を付与している。また、公認審判員の認証には、公認審判員講習の受講と書類審査を行っている。

### 2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院は地下1F部分、中部総本部では1F、5F~6F部分を賃貸している。

### 3 販売品、書籍等事業（収益事業3）

#### (1) 販売事業

各拠点に売店を設置し、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、囲碁用品、囲碁書籍等の販売を行っている。また、通信販売、オンラインショップでの販売も行っている。

#### (2) 書籍等

囲碁年鑑を5月に発売、新刊本、既刊本を各拠点、全国の書店で販売する。電子書籍としてアマゾン社の電子書籍プラットフォーム「Kindle」にて配信を行っている。

#### (3) その他

月刊碁ワールドおよび囲碁年鑑に広告を掲載している。また、各拠点に自動販売機を設置している。

### Ⅲ 管理部門

#### 1 コンプライアンス

コンプライアンス行動規範に則り、定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力している。内部統制については、各所属長を中心に、監事監査の実施及び改善対応を実施している。

#### 2 寄付金の維持・拡大と有効活用

公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、維持、拡大を図っている。法人賛助会員については、各企業の社会貢献活動としてご支援いただき、囲碁を通じて子供たちへの普及、才能の発掘と育成、高齢者の健康増進等に役立てている。その他の特定寄付金は、大倉賞基金、秀哉賞（福田賞）基金、岩本海外囲碁普及基金、平田博則メモリアル基金等となる。